

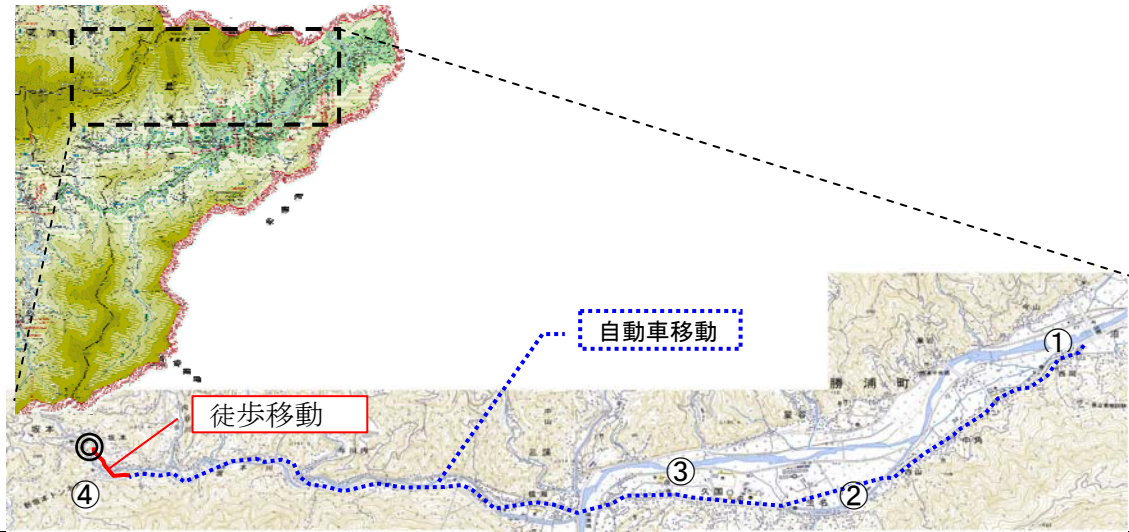
4.2.4 徳島県勝浦町地区

(1) 開催概要

日時	平成20年12月9日 14:00～17:00
場所	徳島県勝浦町 ふれあいの里 さかもと 研修室
内容	<p>1. 勝浦町の古木「夢ざくら」や坂本地区の散策・視察</p> <p>2. 意見交換</p> <p>(1) 挨拶等</p> <p>① 四国地方整備局</p> <p>② 出席者紹介</p> <p>③ アドバイザー挨拶 東京大学都市工学科 羽藤准教授</p> <p>(2) 町の宝「夢ざくら」満開プロジェクトについての紹介</p> <p>(3) 「夢ざくら」満開プロジェクトを進めるに際しての視点</p> <p>(4) 意見交換</p> <p>(5) その他</p> <p>① 今後の予定等</p> <p>② 閉会挨拶</p>
出席者	<p>羽藤 英二 (東京大学 都市工学科 准教授)</p> <p>谷中 登希男 (谷中文庫同志会 主宰)</p> <p>森本 友章 (徳島県ふるさと土と水 指導員)</p> <p>殿川 武男 (NPO法人阿波勝浦井戸端塾 理事長)</p> <p>薮計 寛 (NPO法人阿波勝浦井戸端塾 副理事長)</p> <p>佐藤 啓子 (NPO法人阿波勝浦井戸端塾 副理事長)</p> <p>笹山 芳宏 (勝浦町役場 総務税務課 係長)</p> <p>香川 泰良 (四国地方整備局 企画部 技術企画官)</p> <p>高橋 淳二 (企画部企画課 課長補佐)</p> <p>原田 めぐみ (徳島県 都市計画課 技師)</p> <p>鈴木 絢子 (香川県 都市計画課 主任技師)</p> <p>筒井 紀裕 (高知県 都市計画課 主査)</p> <p>黒岩 健一 (高知市 都市計画課 主任)</p> <p>高橋 史 (東かがわ市ニューツーリズム協会 職員)</p> <p style="text-align: right;">(計 14名)</p>

(2) 外観のチェック ～まちを歩き、地域内外の視点から見る

1) コース



①「夢ざくら」周辺



「夢ざくら」前の和菓子屋「前松堂」



「夢ざくら」



「夢ざくら」周辺の様子

②特別養護老人ホームゲートボール散歩道周辺、勝浦病院駐車場周辺

増殖した「夢ざくら」の植樹を検討している、特別養護老人ホーム「喜楽苑」のゲートボール場および勝浦病院駐車場周辺を車中から確認した。(車中より確認のため写真無し)

③ビッグひな祭り会場およびその周辺



ビッグひな祭り会場



ビッグひな祭り会場内部



ビッグひな祭り会場周辺の様子

④坂本下道



坂本集落全景



みかん倉庫跡



集落内の様子

2) 見る視点

- 豊かな自然資源
- 地域の魅力、雰囲気づくり
- 地域の人々の活動、もてなしの心

3) 気付いた点の確認

①夢桜の活用

- 桜をブランド化するには、その背にある物語に価値があり、これを書きとめ、語り継いでいかなければならない。町史の編纂にたずさわれた方に話を聞き、資料を見て、地図や文章に反映することが考えられる。
- 桜の時季なら立ち寄る「前松堂」も、今の時季には通過してしまう。ここは、物語で一番大事なところだが、今は空間整備ができていない。留まらせる工夫が必要。入口となる「前松堂」と隣、前の三軒ほどをきれいにすればいい。



夢ざくら



川沿いのさくら

②ビッグひな祭りのこれからの展開

- ビッグひな祭りは、よそに回らせる工夫があればいい。
- ひな人形は、普通の風景の中に飾られてこそいいので、各家々が、飾る人形を来訪者へ見せる工夫や地元の風習を取り入れ、厚みを増すことが考えられる。
- 本物とは何かを考え、古いひな祭りの写真を集め、古いひな人形が刻んだ歴史を掘り起こしていく事が大事。



ビッグひな祭り会場



ビッグひな祭りの様子

③地域の魅力、雰囲気づくり

- 茅葺屋根を補修した赤いタン屋根が印象的で、ミカン農家と自然の織り成す風景が良い。この風景をどこから見せるか、ビューポイントの設定とプレゼンの仕方がカギ。
- 路地や細いあぜ道のわだち、小さな階段や水路、河川の堰の石の並びなど生活感のある細かいところはとても良い。集落のポイントに古い魅力のある木があり、これを活かせるのではないかな。
- お遍路とふれあいの里 坂本の組み合わせや、地区の風景の良さを活かしてパン焼き、音楽といった新たな要素との組み合わせや、集落内の民家に飾られたひな人形を巡るといったメニューが考えられる。
- 耕作放棄されたミカン畑に紅葉や桜の植樹を進めている。しかし、鹿に食われて、紅葉や桜がだめになる。
- 空き家や荒廃した民家について壁などを飾り、しつらえる必要がある。また景観を阻害する緑色のフェンスなどへの対応が必要。



印象的な赤いタン屋根



坂本集落の魅力的な木



独特な雰囲気を持つイチョウ



旅館・ベンガラをあしらった妻面



目立つフェンス

(3) 内面のチェック ～ヒアリングにより地域の暮らしぶりや営みを把握する

- 勝浦町は、基幹産業のみかん産業が低迷、若者も流出し、過疎の町として活力を失ってきた。
- ビッグひな祭り等のイベントによって交流人口増によりにぎわいを取り戻しているが充分ではない。
- 前回前松堂前休憩所に樹齢 100 余年の早咲きエドヒガンザクラ通称「夢ざくら」が枯死寸前の状態にある。
- これを親木として苗木を増殖しようと有志渡農園主、勝浦高校 OB 谷田氏、勝浦高校教師定作氏が試行錯誤のうえ成功。現在 150 本が渡農園で育成されている。
- 夢ざくらを増殖し、ビッグひな祭り会場付近を中心に、また町内道路側帯、観光地通路にも植栽し、早咲きざくらの名所として町の活性化を図りたい。

(4) 取組指針との整合性の分析

取組指針からみた現状の問題点は以下のとおりである。

- 町を東西に貫く勝浦川や県道は、河川区域や道路区域等植樹の際に管理者等との協議が必要。
- さくらをブランド化するには、その背景の物語が重要。
- 「前松堂」周辺に留まらせる工夫、空間整備が必要。
- ビッグひな祭りを起点に、周遊可能なメニュー作りが必要。
- 坂本地区の風景の良さを活かして、各家々が飾るひな人形を、来訪者へ見せる工夫等、厚みを増すことが考えられる。
- 坂本地区のみかん農家と自然の織り成す風景を活用するために、ビューポイントの設定や荒廃した民家などのしつらえを整える必要がある。

(5) 将来を見据えた助言

1) 10年先を見据えた目標設定

10年先を見据え、地域の魅力を活かした風景づくりを進める方策として、以下を提案する。

○「夢ざくら」の移植を進めまち中をさくらで一杯にする

増殖に成功した「夢ざくら」を町内各所へ移植し、まち中をさくらでいっぱいにする。さらに、「夢ざくら」の植えられている、和菓子屋「前松堂」周辺の修景整備とあわせて、さくらの延命処置の実施。

○「ビッグひな祭り」を核にした周遊メニューの創出

開催20回以上を数える「ビッグひな祭り」の新たな展開として、地域の伝統的な「ひな祭り」の様子を見ていただく。具体的には、地域のひな祭りに関する考証を行ったうえで、町内各所で当時の様子を再現し、イベント期間中のメニューとして組み込むことが考えられる。

○「阿波貯蔵みかん」のブランド化

かつて、全国に名を馳せ、町の基幹産業としても栄えたみかんの生産。早生のみかんを貯蔵し熟成させたくて出荷する、「阿波貯蔵みかん」を、自然栽培や自然貯蔵・熟成の高付加価値型のみかんとして再ブランド化する。熟成には、坂本地区にある、廃屋となったかつての貯蔵庫を改修して用いる。これにより、生産放棄が進みつつある、町内のみかん畑の生産維持にもつなげる。

2) 次回フォローアップ時までの具体的アクションに関する助言

目標の達成に向けて実施する具体的取組として、以下のアクションを概ね5年間で行うことを提案する。

○「夢ざくら」の移植を進めまち中をさくらで一杯にする

- 町内主要施設周辺への「夢ざくら」の移植
- 県道や河川沿いの民地側への「夢ざくら」の移植(地権者の了解を得ながら)
- 「前松堂」周辺の修景整備
- 「夢ざくら」の延命処置

○「ビッグひな祭り」を核にした周遊メニューの創出

- 地域に伝わる「ひな祭り」の考証
- 地域の伝統的ひな祭りの公開(町内各所)

○「阿波貯蔵みかん」のブランド化

- 廃屋となったみかん貯蔵庫の修復・再生
- NPO法人等が主体となったみかんの生産(町内各所)
- 「阿波貯蔵みかん」の販売戦略の検討・立案

取組	実施時期				
	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
町内主要施設周辺への「夢ざくら」の移植					
県道や河川沿いの民地側への「夢ざくら」の移植					---
「前松堂」周辺の修景整備					
「夢ざくら」の延命処置		---	---	---	---
地域に伝わる「ひな祭り」の考証					
地域の伝統的ひな祭りの公開(町内各所)			---	---	---
廃屋となったみかん貯蔵庫の修復・再生					
NPO 法人等が主体となったみかんの生産(町内各所)		---	---	---	---
「阿波貯蔵みかん」の販売戦略の検討・立案		---	---	---	---

【活動位置図】



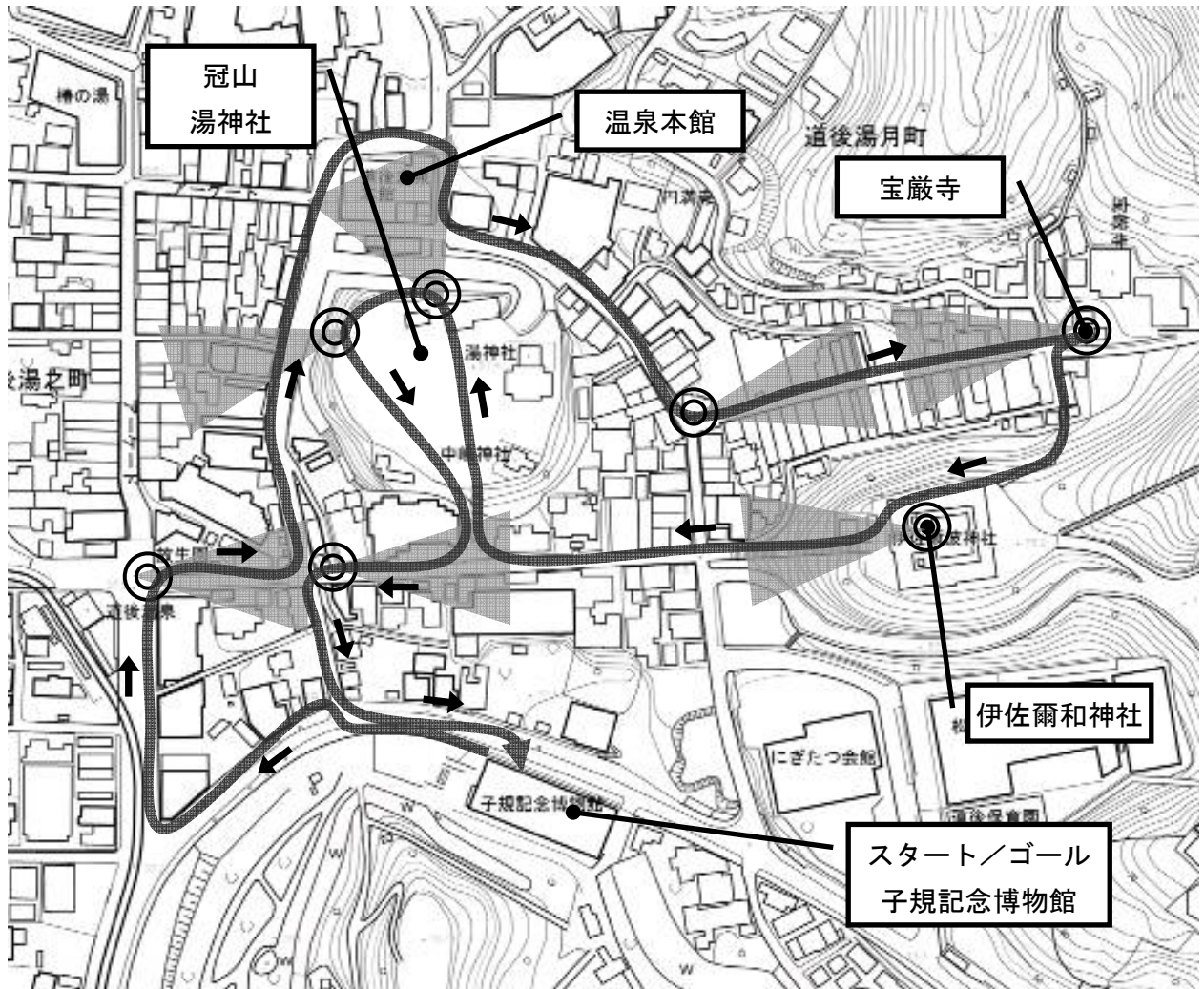
4.2.5 愛媛県松山市道後地区

(1) 開催概要

日時	平成 21 年 3 月 17 日(月)13:00～15:30
場所	子規記念博物館 2 階会議室
内容	<p>1. 道後温泉地区の散策・視察</p> <p>2. 勉強会</p> <p>(1) 挨拶等</p> <p>① 四国地方整備局</p> <p>② 道後温泉誇れるまちづくり推進協議会</p> <p>(2) 京都市の姉小路界限における取組み 姉小路界限を考える会事務局長 谷口親平氏</p> <p>(3) 道後の眺望景観に対する意見交換</p> <p>(4) 古都における眺望景観保全の実際 パシフィックコンサルタンツ株式会社 千田雅明</p> <p>(5) 今後の美しい四国・モデルプロジェクトとしての取組みについて</p> <p>(6) 閉会</p>
出席者	<p>柏谷 増男 (愛媛大学大学院 理工学研究科 教授)</p> <p>宮崎 光彦 (道後温泉誇れるまちづくり推進協議会 会長)</p> <p style="text-align: right;">(他 20 名)</p> <p>渡部 浩文 (松山市 都市開発課 副主幹)</p> <p>谷口 親平 (姉小路界限を考える会 事務局長)</p> <p>千田 雅明 (パシフィックコンサルタンツ(株)大阪本社総合計画部技術次長)</p> <p>菊池 雅彦 (四国地方整備局 企画部 企画調査官)</p> <p>香川 泰良 (四国地方整備局 企画部 技術企画官)</p> <p>高橋 淳二 (企画部企画課 課長補佐)</p> <p>原田 隆史 (企画部企画課 事業景観係長)</p> <p>原田 めぐみ (徳島県 都市計画課 技師)</p> <p>鈴木 絢子 (香川県 都市計画課 主任技師)</p> <p>弘田 雄嗣 (香川県 都市計画課 主任)</p> <p>筒井 紀裕 (高知県 都市計画課 主査)</p> <p style="text-align: right;">(計 33 名)</p>

(2) 外観のチェック ～まちを歩き、地域内外の視点から見る

1) コース



2) 見る視点

- 地域に調和した風景・景観、地域に調和しない風景・景観
- 眺望景観
- 地域の魅力、雰囲気づくり

3) 気付いた点の確認

①自主的な看板撤去やファサード整備が進められているが、気になるものもある

- 道路整備が綺麗にされており、もてなしの心がみえた。
- フェンスや看板に落ち着いた色が使われている。
- 金融機関の赤い看板が目立った。



綺麗な道路整備、もてなしの心



目立つ赤い看板

②高い建物(マンション)が眺望を遮っている

- 高いマンション等で、松山城への眺望がさえぎられている。
- 高い建物の圧迫感があり、道後温泉本館の存在感が薄れる印象がある。
- 城が見えるまちなちになるよう、高さ規制を実施してはどうか。



松山城への眺望がさえぎられる



圧迫感のある高い建物

③古い建物の跡が駐車場になっている

- 古い建物、価値のある建物の跡が、駐車場などになるのはもったいない。
- 不動産の専門家を入れながら、地区修復のマスタープランをつくるのも良い。



古い建物の跡地利用は駐車場

④電線と電柱が気になる

- 電線と電柱が目立つので、地中化や裏配線、地上を這わせるなど工夫をしてはどうか。



電線、電柱が目立つ町並

⑤道後公園をもっと魅力的に、PRしてはどうか

- 道後公園が道後温泉と一体的にPRされていない。
- 道後公園の桜が枯れており何とかしてほしいが、文化庁の管轄なので話が通らない。

⑥その他

- 放置自転車が多かった。
- 神社の駐車場が広すぎるように感じた。

(3) 内面のチェック ～ヒアリングにより地域の暮らしぶりや営みを把握する

- 道後温泉は、3 千年の歴史を誇る日本最古の温泉地として全国に知られているが、112 年前の明治 27 年に初代道後町長伊佐庭如矢が幾多の困難を克服して建設した道後温泉本館を中心に観光産業の基盤が作られるなど、現在の繁栄の基礎は先人の方々が地域に対して注いできた限りない愛情に成り立っているものと言える。
- 道後の宿泊客数は平成11年度の瀬戸内しまなみ海道開通時の 135 万人をピークに、最近では 80 万人前半という厳しい現状にあり、観光事業者は、先人が遺した偉業・遺産を食い潰しているだけではないかとの反省に立ち、歴史文化の豊かさを如何に活かし、次代に引継いでいくべきか模索している状況にある。
- まちの生活文化の高さや魅力度が、人々が集い交流する観光産業の発展の母体になると考えられ、美しく文化的に豊かなまちの環境が、人々の感性を磨き、それがおもてなしの心を育て、観光地としての心地よい時間と空間を絶えず創造、発信していく土壌となることから、重点的な課題としては、町の景観の重要性の認識をいかにして事業者や市民に醸成していくか、また、美しい町を作っていく具体的なプロセスを提示していくかであろうと考えられる。
- 改めて原点に立ち返り、「坂の上の雲」に描かれている明治の時代の人々が松山で持っていたような気概と情熱、そして不屈の行動力を持って、地域住民が誇りをもてるまちづくりを進め、温泉地再生に取り組まなくてはならないと考えている。

(4) 取組指針との整合性の分析

取組指針からみた現状の問題点は以下のとおりである。

- 自主的な看板撤去やファサード整備が進められているが、気になるものもある。
- 高い建物(マンション)が、道後地区からの眺望を遮っている。高さに関する規制が必要。
- 古い建物の跡が駐車場になっており、連続性に欠ける。
- 道後公園の魅力を高め、もっとPRしてはどうか。
- その他(放置自転車が多い、神社の駐車場が広すぎる)

(5) 将来を見据えた助言

1) 10年先を見据えた目標設定

10年先を見据え、地域の魅力を活かした風景づくりを進める方策として、以下を提案する。

○道後温泉周辺を厚みのある歴史漂う界隈性のあるまちにする

道後には古代から伝わる温泉の歴史があり、来訪者がこれら厚みのある歴史を感じられるまちづくり「歴史漂う界隈性のあるまち」をめざす。具体的には、『道後百年の“景”』道後温泉歴史漂う景観まちづくり宣言の内容に即した活動として、『伊予の湯桁』(源氏物語)、『聖徳太子行幸の湯』、『額田王』、『松平藩の温泉経営』などの歴史を現在に何らかの形で復元させる。

○道後地区の各視点場から、松山城への眺望や通りの見通しを確保する

道後地区は、松山都市圏の中で、住みたいエリア No.1 であり、マンションが立地しやすい地区である。しかしそれが、良好な眺望を阻害する要因となっており、現状ではそれを阻止する手立てがない。

マンションによる松山城への眺望の阻害、電線・電柱・看板等による見通し、雰囲気阻害などを抑制し、外から見た景観(観光)と、内から見た景観(生活)の両方を調和させていく。そのために、守るべき景観や磨きあげるべき景観について、合意形成を図る。

2) 次回フォローアップ時までの具体的アクションに関する助言

目標の達成に向けて実施する具体的取組として、以下のアクションを概ね5年間で行うことを提案する。

○道後温泉周辺を厚みのある歴史漂う界隈性のあるまちにする

- 「伊予の湯桁」や「聖徳太子行幸の湯」等の歴史に関する情報の整理
- 復活すべきテーマ・物語の構築
- 歴史漂う空間づくりやサービスの復元(歴史まちづくり法の活用)
- さらに幅広い歴史資源の発掘と復元手法の検討

○道後地区の各視点場から、松山城への眺望や通りの見通しを確保する

- 眺望景観に関する勉強会の継続(地元と行政の対話)
- 道後温泉地区における視点場の設定
- 眺望景観、通りの見通し確保に向けた方針づくり
- 眺望や見通し確保に向けたルールづくり(景観計画・景観条例の策定)

取組	実施時期				
	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
「伊予の湯桁」や「聖徳太子行幸の湯」等の歴史に関する情報の整理 復活すべきテーマ・物語の構築					
歴史漂う空間づくりやサービスの復元(歴史的まちづくり法の活用)					
さらに幅広い歴史資源の発掘と復元手法の検討					
眺望景観に関する勉強会の継続(地元と行政の対話)					
道後温泉地区における視点場の設定					
眺望景観、通りの見通し確保に向けた方針づくり					
眺望や見通し確保に向けたルールづくり(景観計画・景観条例の策定)					

【活動位置図】

The map shows the Dōgo Onsen area with several key locations and activities highlighted:

- 冠山 (Koroyama):** A purple circle highlights this area. A callout box above it says "円満寺等歴史資源の再発見" (Rediscovery of historical resources like Enman-ji Temple). A photo of Enman-ji Temple is shown next to it.
- 宝厳寺 (Hōgen-ji):** A yellow circle highlights this area. A callout box above it says "宝厳寺から松山城への眺望を確保" (Ensure the view from Hōgen-ji Temple to Matsuyama Castle). A photo of the view from Hōgen-ji Temple is shown next to it.
- 道後公園 (Dōgo Park):** A yellow circle highlights this area. A callout box below it says "道後温泉本館と、宝厳寺(ネオン坂)、伊佐爾和神社、道後公園などの回遊性を活かし、歴史の厚みと境界性が感じられる空間や、仕掛けづくり(復元)を行う" (Utilize the walkability of Dōgo Onsen Main Building, Hōgen-ji Temple (Neon坂), Isanwaka Shrine, and Dōgo Park, etc., to create a space where the thickness of history and the sense of boundaries can be felt, and carry out construction (restoration)).
- 伊佐爾和神社 (Isanwaka Shrine):** A yellow circle highlights this area. A callout box below it says "伊佐爾和神社参道の見通し(電線・電柱)を改善" (Improve the view of the Isanwaka Shrine approach (power lines, power poles)). A photo of the shrine approach is shown next to it.
- 眺望確保 (View Protection):** A callout box to the right says "伊佐爾和神社から松山城への眺望を確保" (Ensure the view from Isanwaka Shrine to Matsuyama Castle). A photo of the view from Isanwaka Shrine is shown next to it.

Other locations marked on the map include 円満寺 (Enman-ji Temple), 宝厳寺 (Hōgen-ji Temple), 冠山 (Koroyama), 道後公園 (Dōgo Park), 伊佐爾和神社 (Isanwaka Shrine), 道後温泉本館 (Dōgo Onsen Main Building), and 宝厳寺 (Hōgen-ji Temple). Photos of these locations are interspersed throughout the map.